



三本桜

第22号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
9月の目標：伝わるあいさつをしよう

子どもたちへの支援をお願いします

新たなスタートから1か月が過ぎようとしています。これからの季節は「実りの秋」と呼ばれるように、知識や経験を豊かに実らせる貴重な時期です。この時期、子どもたちがより一層学びや成長を深めるために、保護者の皆様のご協力が欠かせません。特に、以下の点でのご支援をお願いします。



① 家庭での学習環境の整備

子どもたちが集中して学べる場所を確保し、学習に関してポジティブな姿勢でサポートいただけると幸いです。

② 栄養と健康の管理

朝食をしっかりと食べ、体調管理を心掛けることで、毎日の学校生活をより良く過ごせるようになります。

③ コミュニケーションの充実

学校での出来事や学びについて、積極的にお話を聞いていただくことにより、子どもたちのモチベーションが向上します。

保護者の皆様の温かいご支援があってこそ、子どもたちがより豊かな学びの実りを得ることができます。これからも引き続き、ご協力のほどよろしくお願いします。

水泳学習に向けて

まもなく水泳学習がはじまります。今年も感染症対策をしっかりと行いながら実施します。水泳学習では些細なことが原因で取り返しのつかない事故につながる場合があります。体調がすぐれないとき、激しい運動の後や、疲労している場合には、プールに入ることができません。水泳学習の前日は特に寝不足にならないようお子さんに声をかけ、当日の朝は必ず朝食を食べてから登校させてください。



また、当日の朝は、お子さんの様子をご覧になり、体調の悪いときは無理をさせず、参加させないでください。お子さんが、「参加できる」といった場合でも、登校後の体調によって、プールに入らない判断を学校側ですることもあります。水泳学習を安全に事故なく実施するため、どうぞご理解ください。

言葉と心を育てる

「第一印象が大切」とよく言われます。必ずしも第一印象がその人の性格や人柄と一致するとは限りませんが意外と重要です。第一印象を決定する要素に、服装、髪型等の見かけのほかに、身振り、声、言葉遣いがあります。その中でも言葉遣いは、その後の関係に大きく影響するほど重要です。学校では、言葉遣いは友達関係に大きく影響します。悪気がなくても使う言葉しだいでは、相手からいじめと捉えられることもあります。

幼児や低学年では言葉によるトラブルに発展しない場合でも、子ども同士のつながりが強くなる中学年以降になると状況が変わってきます。言葉遣いに変化が生まれ、成長とともに複雑な心情が生まれてきます。メディアやゲーム、SNS 等で知った言葉を本来の意味がよくわからないまま、自分の気持ちの表現として現実の友達関係の中で使うようにもなります。そうした言葉にはぬくもりのある言葉もありますが、残念ながら現実の世界で使用するには不適切な言葉の方が多く、知らず知らずのうちに相手を傷つけたり悲しませたりすることになります。

「言葉は口からではなく、心から出る」と言われます。言葉はその人の心の表現しているということです。意味がわからないままよくない言葉を使っていると、よくない心の持ち主と判断されかねません。言葉の力を育てるということは心を育てることと密接につながっているのです。

だからこそ、子どもたちの心を育てるには、子どもたちの最も身近な存在である、私たち大人の言葉遣いがとても重要になります。私たち大人は、このことをいつも心に置きながら子どもたちと接していきたいものです。

学校では、子どもたちが集団の中で安心して話ができる環境を整えたり、自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えることができる話し方について指導したりしています。本来、言葉は自分の気持ちを伝えるとともに、相手のことをより深く理解し人と人をつなぐ大切なものであり、適切な言葉遣いは、長い時間をかけて、家庭生活や学校生活、社会生活の中で人と人のかかわりで培われていくものです。子どもにとって家庭は、家族の声を聞き、多くの言葉を獲得し、言葉遣いを学ぶ最も身近な環境です。学校、家庭において、認め、励まし、褒める言葉、優しい言葉や心温まる言葉で子どもたちを育てていきたいものです。

地域の方にお世話になりながら（４年生）

16日（月）、おとうふ工房いしかわより講師をお迎えし、今、地球で起きている環境問題や地域企業としての取り組み、SDGs についてご講義いただきました。子どもたちは、自分が未来に向けて何ができるか、また、何をしていくべきかを考えるきっかけとなりました。

